

# 説明責任が機能しない 「人治の国」のフシギな選挙

中国の農村部では直接選挙が行われている。問題が山積する中国の農村行政は、選挙を通じて透明度を上げられるのか。

UCLA政治学部博士候補生・武内宏樹

## 1 980年、広西チウワ

ン族自治区の小さな村で歴史的な出来事が起こった。85戸の農民が参加して選挙が行われ、自らの手で村民委員会のメンバーを選んだのである。毛沢東時代の人民公社制度は70年代にはすでに多くの農村で崩壊。空洞化した行政機能を回復させることが急務となっていた。以来、法律の整備もあり、農村選挙は全国のほとんどの村で行われるようになった。

この選挙はどのように行われているのか。その実像は、将来中国が民主政体に移らされるかどうかを占うものとして内外から注目されている。筆者は昨年1年間、中国各地で農村選挙の実地調査をした。その過程で、中国の農村選挙が民主主義国の選挙の概念からかけ離れている実態をつぶさに見るようになった。

二つのエピソードを紹介しよう。選挙を1週間後に控えた湖南省の農村での話。選挙を監督する立場にあるR鎮政府の幹部である劉氏（仮名）に、選挙運動の過程で遊説、演説などどのように行われるかを聞いてみた。

ところが、劉氏は得意げに「われわれの鎮では演説など選挙運動は許されていない。候補者は演説ができないので、腐敗も起こらない。演説なきところに腐敗はない」と答えた。演説は選挙における説明責任（アカウンタビリティ）の基本ではなかったか。

河北省のD村。内蒙古自治区に程近い貧しい農村である。前回の選挙で当選した村長（村民委员会主任）の王氏（仮名）に、どういう選挙運動をしたのか聞いてみた。答えは、「何もなかった」。ここでも、選挙を通して執政者

の説明責任を担保するといふ、民主主義制度の前提は通用しない。

## 選挙で選ばれる村長より 共産党支部書記が上位

背景を理解するため、中国農村の行政機構を簡単に紹介しておこう。各村には村民委員会と共産党支部という二つの組織が存在。村民委員会は村民の選挙で選ばれるのに対して、党支部のメンバーは村の党員の選挙によって選ばれることになる。

ることになっている。だが、事実上は一つ上の行政単位である郷鎮政府の党委員会の任命による。この二つの組織間の力関係は明白で、党支部が村民委員会の上に位置する。つまり共産党の組織が選挙によって選ばれた組織より上位にある。それぞれの組織は3人から7人で構成され、同じ人物が双方の組織に名を連ねることも珍しくない。

D村の王氏は選挙の前にすでに党支部書記（党支部）として村の行政機構のトップにいた。中国の農村選挙では本人の意思と関係なく、村民の推薦があれば立候補者となる。小規模な農村では村民全員がお互いに知り合いであり、誰が村のリーダーにふさわしいかは政策を評価するまでもなく村民は判断できるものである。だから、演説がなく



小さな農村では村民全員がお互いに知り合い。選挙も形だけのものになりがちだ

でも問題にならないのだ。このような人物評価に基づく農村選挙は、村民誰もが認める能力のある人物（「能人」）がいる場合はうまく機能する。D村のように党支部が能人の場合、選挙で党支部が村長に選ばれることがよくある。また、沿海部の工業化した農村では、行政能力のある地元企業家が入党、村長と党支部を兼ねるケースも多い。

問題は党支部に行政能力がない場合（さらに、多くの場合は腐敗している）だ。党支部は選挙で選ばれるわけではないので、たとえ村民が村長を「選んだ」としても、党支部のほうに権力を持っているのであるから、村の行政機構の説明責任はまったく機能しないことになる。

結局、党組織そのものはいかなる形でも説明責任を負っていない。共産党一党独裁下では、説明責任の有無は党トップの個人的な資質にもつばら依存する。中国の農村が抱える貧困や不平等の問題を改善するには草の根の行政能力を高めることが不可欠だ。そのためには当局者に説明責任を負わせることが欠かせないが、現状では選挙もまた「人治」の一環にとどまっている。